

入試年度	2026年度	入試時期	II期入学試験	実施日	2026年 2月20日(金)
課程	博士前期課程	研究科	政治経済学研究科	専攻・コース	政治学専攻(研究者コース、高度職業人コース)
入試方式	一般入学試験 外国人留学生入学試験		試験科目	専門科目	

「出題の意図」

政治学・社会学に関する専門的な知識を問うとともに、論理的な思考力と適切な文章表現を評価する。政治理論、政治思想、政治史、社会調査法、社会学理論、マス・メディア論等の分野に多様な関心をもつ受験者を想定し、各自の関心に応じた具体的な題材を選択して論述できるよう配慮する。

「解答」または「解答例」

【解答例(採点時の観点)】

4-1

- ・行政官僚制における任用のあり方についての基本的な学問的知識を有しているか。
- ・政治的任用についてのメリット(政治的代表による任用という民主的な観点)とデメリット(恣意的な人事と政治腐敗の温床となる可能性)について正確に理解しているか。
- ・資格任用制のメリット(公平な試験による任用、能力の高い人材の確保等)とデメリット(民主的統制の欠如)について正確に理解しているか。
- ・上記の点をふまえ、政治的任用、資格任用のメリット、デメリットを客観的に比較することができており、それらを踏まえた上で、論理的な結論を導くことができているか。
- ・上記の理論的な検討に加え、現実に生じている各国政府職員の任用についての状況(制度比較等)や、日本の公務員の現状などについて考察が進められ、議論が展開されていることが望ましい。

4-2

- ・社会主義思想の歴史について、その内容や背景に関する正確な知識を有しているか。
- ・社会主義と自由主義、及び、社会主義と民主主義について、政治思想的に論じているか。
- ・現実の社会主義国家体制の歴史、現状、そして問題点について論じているか。
- ・現在での社会主義思想の行き詰まりと新たな社会主義の可能性について論じているか。
- ・以上の観点について、正確な情報や知識に基づき、論理的に自身の考えを文章にまとめられているか。

#### 4-3

- ・日本政治を歴史的、あるいは現代の視点から分析する際に避けることができない、第2次世界大戦の戦前と戦後の関係をとらえる見方である「断絶論」と「連続論」について正確に把握しているか。
- ・断絶論と連続論のいずれかの立場に立ち、その論を主張するに足る論拠をもって文章が構成されているか。
- ・事実を踏まえて、適切かつ論理的に説明することができているか。

#### 4-4

- ・「参与観察法」に関する正確な知識を有しているか。
- ・「参与観察法」の特徴について、学説史上の代表的な研究例にもとづき記述することができているか。
- ・「参与観察法」にもとづく実施可能な調査を、具体的に設計することができているか。
- ・以上について、適切かつ論理的に説明することができているか。

#### 4-5

- ・社会名目論の立場に関する正確な知識を有しているか。
- ・社会実在論の立場について正確に把握しているか。
- ・また、それらの立場を、ドイツの社会学史とアメリカの社会学史と関連付けて説明することができているか。
- ・以上の諸点について適切かつ論理的に説明することができているか。

#### 4-6

- ・自死に関するマス・メディアなどの報道が、受け手に自死を誘発するリスクがあることを正確に理解しているか。
- ・受け手に自死を誘発しないために、国際機関が示している報道指針を正確に把握しているか。
- ・マス・メディアなどへの日常的な接触から、自死に関する報道で一般的に見られる特徴や傾向を正確に把握できているか。
- ・以上の諸点につき、自身の経験などを含め、具体的な事例をあげるなどして的確に言語化できているか。

#### 合否判定の方法及び基準

入学試験は政治経済学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。

